

TIC NEWS

vol. **94**
2010.1

(財)とやま国際センター
〒930-0856 富山市牛島新町5-5
インテックビル4F (タワー111)
TEL (076) 444-2500
FAX (076) 444-2600
E-mail : tic@tic-toyama.or.jp
URL : http://www.tic-toyama.or.jp



(財)とやま国際センター創立25周年記念式典の様様

～(財)とやま国際センター創立25周年～

(財)とやま国際センターは、富山県の民間レベルでの国際交流を推進するため昭和59年11月に設立され、去る平成21年11月15日(日)に創立25周年記念式典を高志会館にて開催しました。

このたびの25周年を契機として、今後とも富山県の国際交流、国際協力及び多文化共生の推進に全力を尽くしていきます。

災害時の外国人支援日本語ボランティア養成講座 ～「やさしい日本語」が外国人被災者を救う～

日時：平成21年10月31日(土)

場所：高岡市生涯学習センター

講師：柴田 実氏(NHK放送文化研究所主任研究員)

中河和子氏、田上栄子氏(トヤマ・ヤポニカ)

柴垣 禎氏(富山県国際・日本海政策課国際協力係長)

災害時に避難場所等において、国籍も言葉も異なる多くの外国人被災者に対し、「迅速」「正確」「簡潔」に誰もが理解できる「やさしい日本語」での情報提供を行える日本語ボランティア養成講座を開催しました。

まず、富山県国際・日本海政策課国際協力係長柴垣禎氏から、震災時の外国人支援活動の実例が示されました。トヤマ・ヤポニカの田上栄子氏は、地域の日本語教室の中で実際に外国人と防災について考えた事例を紹介しました。参加者のみなさんには「やさしい日本語」と「普段からの防災訓練や地域の人と関わりについて考える」必要性についての理解を深めてもらいました。

続いてトヤマ・ヤポニカ中河和子氏からは実際のラジオの放送文や市の広報を「やさしい日本語」に置き換えるという作業について説明がありました。実際やってみて、このような「やさしい日本語」は外国人だけでなく、高齢者施設などの場でも活用できそうだという感想が聞かれました。

NHK放送文化研究所主任研究員、柴田実氏からは「やさしい日本語」をどう伝えるかという音声の面での指導を頂きました。実際に声に出して読み上げる練習では、姿勢、呼吸、声、表情の作り方などの具体的な指導があり、受講者からは「とても難しく体力がいる」などの感想がありました。

災害時には、日本人でも、ストレスで普通の手話の日本語を理解できなくなります。「必要な情報を「やさしい日本語」で伝えることで、被災者の中に安心感や連帯感が生まれ、人を繋ぐことができる」と柴田先生は説明されました。



日本語ボランティア・スキルアップ ～ボランティア・リーダーのための勉強会～

日時：平成21年11月28日(土)

場所：環日本海交流会館

講師：山下隆史氏(文化庁文化教育部国語課日本語教育専門職)

コーディネーター：中河和子氏

地域の日本人住民と外国籍住民の橋渡しの場としての地域日本語教室の果たす役割は年々重要性を増してきています。その中で日本語ボランティアの中心的役割を担っている方々が抱える課題・問題を話し合うための勉強会を開催し、県内から5教室8人の方々が参加されました。

山下氏は以前に、とよなか国際交流協会日本語教室設置運営事業「であい つながり まなびあう 地域づくりと場つくりの日本語」などに携わっていた経験から、「地域に暮らす外国人が元気に安心して暮らすために」に「ピア(仲間)、ロールモデル(目標となる人)、安全な場所、民族コミュニティ」が必要だとメンタルヘルスの視点で説明されました。「地域に住む外国籍住民を取り巻く環境は複雑でいろいろな問題が絡み合っています。どれか1つの問題を解決すればなんとかなるものではありませんが、その悪循環が連鎖していくのを防ぐことはできます。地域の日本語教室が外国籍住民の“元気回復の場所”となったらいいですね」という講師の話に参加者からは自分の悩みに対し、意義ある話が聞けてよかったという感想がありました。

また、参加者にはそれぞれの教室の状況報告と課題・問題点、そして自慢できるところを紹介してもらいました。お互いの教室の取り組み状況などを知ることにより、自分達の活動のヒントが得られたという感想もありました。

「日本語教室が外国人と社会をつなぐネットワーク作りの場になれば」という講師の言葉とともに、地域の日本語教室の中心を担う方々がお互いの“元気”と“課題・問題点”をやり取りできた勉強会となりました。



国際交流フェスティバル2009

去る11月7日、8日の2日間にわたり、富山駅前CiCビルにて国際交流フェスティバル2009が開催されました。

このフェスティバルは県内の国際交流・協力団体の日頃の活動や、異文化について幅広く紹介することを目的として行われ、今年で13回目を迎えました。

フェスティバルは軽快な津軽三味線のリズムで開会しました。それに続いてギターやピアノ演奏、バンドによる演奏が行われ、5階多目的ホールは自由に歌って踊れる場となりました。2日目には世界で活躍する南米音楽グループ、“ウェイノ”によるアンデス民謡や、留学生、ALT、外国語学習者などによる舞踊や歌の披露がありました。毎年恒例の外国人カラオケ大会では、7カ国12名が見事な歌声を披露し、会場を盛り上げてくれました。

両日をとおり館内に設置されたブースでは、各国料理・民芸品などの販売やパネル展示のほか、日本文化の体験やスピーチコンテストなどの催しが行われ、特に外国人たちが母国を紹介する各国ブースは多くの来場者で賑わいました。民族衣装試着コーナーでも、老若男女国籍問わず多くの方が普段着ることのない衣装に身を包み、世界のファッションを楽しんでいました。



国際交流人材バンク通訳者セミナー

日時：平成21年12月6日(日)

場所：環日本海交流会館

講師：水野真木子氏（金城学院大学文学部英語英米文化学科教授
日本通訳学会理事・日本英語医療通訳協会会長）

とやま国際センターの国際交流人材バンク登録者を対象に通訳者セミナーを行いました。国際センターの通訳登録者146人中、29人が出席し、“地域で必要な通訳の現状、地域の通訳者として必要な資質”というテーマで水野真木子氏に講演をいただきました。

続くワークショップでは、裁判員裁判を題材に、訳し方によって裁判員への印象がどのように変わるかということビデオなどで学習しました。裁判員制度が導入されるなか、法廷通訳の重要性が一層高まっているとの講師の説明がありました。その他、通訳者に必要な倫理観とは何か、また、通訳の基礎トレーニングであるラギング、シャドウイング、その他、効果的なメモの取り方などの紹介がありました。



水野真木子氏の講演

～日本海学講座～

日本海学特別講座「親子料理教室」 名人が手ほどき、フクラギ丸ごと料理教室 ～親子で学ぶ富山の食文化～

日時：平成21年11月7日(土)

会場：富山県民会館 6F料理室

日本海学講座の特別編として、小学生の親子を対象とした料理教室を実施しました。富山の魚「ふくらぎ」を親子で丸ごと料理して味わいながら、魚やお米を使った富山の伝統的な食事の美味しさや大切さなどについて楽しく学ぶものです。

講師に釣 賢一氏（県認定とやま食の匠、富山県調理師会常務理事）、「食育研究会 いただきます！」のメンバーの方々（代表 澤井保子氏）をお迎えし、各家族で一匹ずつふくらぎを捌いて、①ちらし寿司、②お刺身カルパッチョ風、③大根との煮しめ、④あら汁の計4品を作りました。

今回が初めての開催となるこの料理教室には、12家族（計29名）が参加され、講師の方々の丁寧な指導を受けながら、多くの参加者が慣れない手つきで魚に包丁を入れていました。また、調理や試食の合間には、富山湾の伝統的な定置網の漁法を映像とともに紹介したり、食事バランスの大切さを紙芝居で伝えるなどといった企画を用意し、子供たちも熱心に視線を注いでいました。そして最後に、各家庭でも気軽に魚料理に挑戦していただくため、事前に収録した釣 賢一氏による「ふくらぎの捌き方」DVDを配付しました。

参加者からは、「親子で魚料理を楽しむことが良い思い出になった」、「子どもがブロの料理する姿に驚いて、調理に関心をもってくれた」、「家で子どもにもっと包丁を使わせてみようと思った」などの感想が寄せられ、大人も子供も、魚や魚料理に対する関心を深めていました。



第3回日本海学講座 「北前船が運ぶ、海の幸 ～昆布屋さんの熱いおはなし～」

日時：平成21年10月16日(金)、17日(土)

場所：スルガ銀行「d-labo」(10/16)

いきいき富山館情報館(10/17)

県民に好評の日本海学講座を、県外で初めて開催しました。今回は、「北前船が運ぶ、海の幸～昆布屋さんの熱いおはなし～」をテーマに東京都内の2会場で実施し、合計76名の参加がありました。

富山市は、昆布の収穫量がほぼゼロにもかかわらず、1世帯当たりの昆布の年間支出金額が都道府県庁所在市中、全国1位となっています。これには、江戸時代に日本海を通過して北海道と大阪を結んだ交易船「北前船」が、寄港地であった富山に昆布を運び込んだことが大きくかかわっています。

(株)四十物昆布代表取締役の四十物直之氏を講師に迎え、歴史に見る富山と昆布の深いつながり、昆布と富山の食文化、昆布の産地と種類、栄養と健康などの内容で、昆布の加工実演や昆布せりをまじえながらの講義でした。途中で昆布茶、昆布煮、昆布おにぎりの試食もあり、昆布について五感をフルに使いながら参加者は興味深く、楽しみながら受講していました。



第14回とやま国際草の根交流賞表彰式

国際交流・協力活動を草の根レベルで実践している団体、個人を表彰する“とやま国際草の根交流賞”。今回は（財）とやま国際センター創立25周年記念式典と同じ、去る11月15日に表彰式を行いました。受賞者は以下の皆さまです。



《受賞者の皆さま》

【個人】

日下 智子さん

とやま世界子ども舞台芸術祭等の中心的スタッフとして活躍され、子ども達が公演しやすい環境づくりに積極的に携わるなど、国際芸術文化交流の推進に大きく寄与

ジャック・リー・ランダルさん

人形遣いとしてモンゴルやロシアの文化を紹介し、さらに、地域活動にも積極的に参加し、母国アメリカの家庭料理を通じて国際友好親善と国際理解の推進に貢献

谷口 信夫さん

いなみ国際木彫刻キャンプで、コーディネーターとして大会運営を支えた。また、自らハンガリー国際木彫刻キャンプにも参加し木彫刻を通じた国際交流に寄与

中山 美幸さん

国際交流サークル「コスモス」や、とやま外国籍子ども支援ネットワークの代表を務め、国際交流や多文化共生の推進に貢献

西本 美絵子さん

世界で最も短命といわれている西アフリカのシエラレオネの子どもたちに対し多年にわたり教育資金などの支援をし、国際協力の推進に貢献

二瓶 博子さん

外国人相談員としてブラジル人の生活相談に取組むとともに、日伯の相互理解と交流に努めるなど、国際友好親善と多文化共生に貢献

吉田 美紀子さん

毎年中国やフィリピンなどをはじめとして、多くの国の料理を通じた国際交流会を開催し、国際友好親善に貢献

【団体】

(財)日本鳥類保護連盟富山県支部

ロシア沿岸地方の青少年と富山県ジュニアナチュラリストなどが相互訪問し、渡り鳥の共同調査を行い、自然環境保全活動を通じて環日本海地域の国際交流の推進に貢献

福野小学校 父母と教師の会

多年にわたりアメリカ・オレゴン州ポートランド市のリッチモンド小学校の児童とその保護者をホームステイで受け入れ、国際友好親善と国際交流に貢献

日本語教師会ゆうゆう

日本語教室や、日本語ボランティア養成講座を永年担当し、定住外国人の支援に努めるなど多文化共生の推進に貢献

(財)とやま国際センター創立25周年記念

“2009日本海学シンポジウム”

日時：平成21年11月28日(土) 場所：タワー111スカイホール

今年で10回目を迎えた日本海学シンポジウムは、「海とさかなと私たち～先人と世界に学び、未来へつなぐ」をテーマに、富山県漁業協同組合連合会の後援により実施しました。

新湊めでた保存会50名の皆さんによる、海の祝い唄「新湊めでた」で幕を開け、戸高秀史富山県観光・地域振興局長の開会の挨拶に引き続き、4人の講演がありました。総合地球環境学研究所副所長 秋道智彌氏、政策研究大学院大学教授 小松正之氏、秋田県農林水産部参事 杉山秀樹氏、ウーマンズフォーラム魚代表 白石ユリ子氏にそれぞれの立場から魚に関する現状を報告してもらいました。また、秋道氏をコーディネーターに、小松、杉山、白石の3氏と氷見市立博物館館長 小境卓治氏が加わったパネルディスカッションも実施し、会場からの質問にも答えながら、海の恵みの未来について幅広い角度から多くの示唆のある意見が交わされました。

参加者からは、「今まで知らなかった魚が抱える問題がわかった。」「魚食文化を子供たちに伝えていくことは大切なことだ。」などの感想が寄せられ、日本や世界の漁業の現状や食文化に対する関心を深めていました。



“普段着の 国際協力を考える”

講師：NHK解説委員
道傳 愛子氏



—国際協力をめぐる状況—

富山は初めてではなく、新人の頃、「夏・日本海」というシリーズで白エビ漁の取材をしました。今朝もライトレールで岩瀬浜まで行って、歩きながら懐かしくその辺りを見ました。

私はアナウンサーや記者を務めた後に、解説委員として主にアフリカ、東南アジア地域の国際情勢、開発途上国の課題などを担当しています。といいながらもこういう自分自身の紹介の仕方はだんだん時代遅れになってきていると思ったりもします。というのも国際情勢は地域で分けていっては追いつかないほど、金融危機、温暖化、テロ、難民などの問題が国境を越えて広がっているからです。

日本といえばODAで知られていたのですが、今ではアメリカ、ドイツ、フランス、イギリスに次いで世界の5位になっています。平成9年をピークに11年間で40%近く減少し、ODA予算は80年代の水準にまで落ちています。しかし額が大きければいいということでもないことは、今日受賞された草の根の国際協力活動をされている方は現場の取り組みを通して既に感じておられるのではないかと思います。

そして、いろいろな問題が国境を越えて広がっている今、もしかすると国際協力の分野も主役になるのは国だけではない時代を迎えているのかもしれない。企業、NGO、個人も国際協りに積極的な役割を果たせる時代を迎えています。

また、1人が会社も辞めて家族も置いてアフリカで力を注ぐというのは誰にもできることではありません。“普段着の国際協力”というところに込めた意味は「そんなに無理をしない、毎日の生活の中でできる国際協力があるのではないか？」という問題提起です。そんな活動例を4つ紹介したいと思います。

—“普段着の国際協力”の取り組み—

1つ目はスーダンでの妊産婦死亡率削減の取り組みです。実際に助産師の資格をもった女性がもっている技術をスーダンの助産師の方たちに伝えるという地元の人と一体になった取り組みです。妊産婦死亡率は途上国はもちろん、先進国でもほとんど減りません。国連のミレニアム開発目標は8つ項目がありますが、一番改善が見られないのが妊産婦死亡率削減だそうです。どうしてかということ国連の方に聞いたら、どこの国でもお母さんの健康が一番後回しになると。自分が食べるものを我慢しても子どもには食べさせよう、病院に行くのも自分は後回しになってしまうということが変わらない限り、お母さんの健康の改善は見られないようで、数字が改善しない悲しい理由の一端が見えたように思いました。

2つ目はタンザニアでマラリア防止の蚊帳を製造する企業の取り組みです。5年間防虫効果が持続するという薬剤を練りこんだ蚊帳で、網目も熱帯での風通しを配慮した4mmの升目になっているところが日本の緻密さです。世界では年間3億人がマラリアにかかって亡くなっていて、その75%がアフリカの子供達です。蚊帳はマラリア撲滅だけでなく、地元の雇用も生み出しています。また蚊帳があることで子供が後遺症で学校を休みがちになることもなくなる等、いろんな効果も生み出しています。

3つ目はシャンティ国際ボランティア会の東南アジアに絵本を送る取り組みです。途上国では字が読めないのは生死に関わる問題です。道路標識や薬の飲み方にも困ります。それだけではなく「本を読むということは心の栄養なんです」とNGOの方は話しておられました。子育てしながらの主婦で、ボランティアに出かける時間がないという方でも空いている時間で活動ができる、毎日の生活をしながらどこかで誰かの役にたっているという活動だと思いました。

4つ目は“Table for Two”という取り組みです。2人分の食卓という意味ですが、日本のNPOが始めた取り組みで、今は170を超える全国の企業がこの活動に参加しています。例えば社員食堂で500円の定食を頂いて、そのうち20円がアフリカに寄付されるという仕組みです。飢えに苦しんでいる人がいる一方で世界の人口67億人のうち10億人が肥満になっているという食の不均衡があります。毎日社員食堂で食事をとることを通して自分の生活の中からできることがあるのではないかと考える新たな取り組みのように感じます。

—国の“人柄”を伝える責任—

特に日本とアフリカということ考えたとき、日本はアフリカを植民地として支配したことがない、物をつくるだけではなく、国をつくるために必要な人材を育成しているということもあり、支援活動に取り組むNGOの方たちは現地でも好意的に受けとめられています。

日本では声高に「自分がやっている」と言うのは“はしたない”、“言わないのが美德”というメンタリティーがあるようですが、支援をする場合は「日本はこういう形で役に立ちたい、こういうことを大事に考えている国なんだ」というメッセージを日本国民や支援を受けている国の人達にもきちんと伝える責任があるのではないかと思います。人にも人柄があるように国にも人柄があるのだと思います。

—メディアにできること—

NHKではアジア太平洋の放送局のジャーナリストを毎年東京に招いて緊急災害報道についての研修を行っています。スクープを伝えるという私達がよく知っているメディアの側面とは性質が異なる活動かもしれませんが、その国の国民の命を救ったり生活を守ったりということにゆくゆくは繋がるような貢献であり、公共放送に求められている事ではないかと思います。

今、世界中に問題がありますが、世界の国、企業、NGO、市民の連帯に、日本としても政府、企業、NGO、市民がどう繋がっていくかということが一層問われているような気がします。

研修員の皆さん研修を終え、帰国

研修受入機関の方、大変お世話になりました。

■海外技術研修員

■自治体職員協力交流研修員

■多文化共生推進研修員

					
布村エヴェリンさん ブラジル 公立学校共済組合富山宿泊所/レプラン高志会館 (ホテル業務)	コールチュン ビクトルさん ロシア (株)ジェック 経営コンサルタント (企業経営)	王 向栄さん 中国 富山市上下水道局 (水処理技術)	鄒 洪濤さん 中国 富山県農林水産総合技術センター農業研究所 (国)富山大学極東地域研究センター(農業)	劉 蘭嵐さん 中国 (財)環日本海環境協力センター(環境)	ファビアナ クリスチーナ ラモス バトロシニオさん ブラジル 高岡市立野村小学校 (教育)
和食、フランス料理、中華料理の見習い、ベッドメイキングから日本の披露宴についても研修しました。和食では綺麗な盛り付けと色の合わせ方がとても大切だと思いました。ブラジルに帰ったら私の働いているホテルで新しいアイデアを少しずつ取り入れたいと思います。	日本のレストラン等の営業、コンビニの経営、ビジネスの交渉の仕方等を研修しました。日本の会社ではみんな良く働きます。会社には上下関係がありアイデアと企画は上で決められ社員は決められた課題をすべて期限までにやります。我々なお客さんにも礼儀正しいです。	富山市の下水道はほとんど分流式で、廃水処理率も100%に近いです。完璧なマネジメントが富山の良い環境をつくっています。帰国後、昆明で環境保護の仕事に戻りますが、分流式の考え方、上水の生産技術、下水の処理技術等、研修したことを活用したいです。	私は土壌の生産力を高める技術、稲の栽培技術、生育調査方法、農作物の病虫害防止の方法などを研修しました。日本は肥料の養分の利用効率が高く、農業環境保全技術が進んでいます。面白く充実した研修で多くを学びました。帰国した後、私の大学での研究に役立つと思います。	国や県の環境に関する法律、政策について、富山県の大気、水質等の汚染状況・対策等を学びました。実際に有害大気物質、アスベストのサンプリング、処理、分析方法等も研修しました。また多数の環境施設も見学する機会を得ました。研修成果を生かして頑張ります。	ブラジル人児童の取り出し学級で、授業について行くのが難しい子供たちの学習支援を行い、ときには児童の相談にのったりもしました。ここで研修したことは、ブラジルに帰国して、日本から帰ってきたブラジル人児童たちの支援に就くときも大変役立つと思っています。



今回はタイ王国から届いたシニア海外ボランティア 澤木 佳子さん からの便りをご紹介します。

お正月気分がまだ残る日本を発ち、日差しがまぶしいタイに着いたのは2009年の1月でした。私が配属されたのはバンコクから180キロ東南のラヨン県に在る「東部職業リハビリテーションセンター」です。ここは労働災害による障害者にリハビリテーション医療と職業訓練を行っています。ここで私はシニアボランティアとして2年間の「作業療法」活動を開始しました。

タイ人は音楽が好きです。作業療法室では携帯電話で各人が好きな音楽を鳴らしていました。ひとつの空間に3、4の音楽が混ざりあっています。センター近くの自動車整備工場のお兄さんは早朝からラジオの大音響の元で仕事を始めます。又週末になると、近くの寺院から夜遅くまで説教や音楽、歓声が空を駆けめぐっています。まるで毎日のように運動会や盆踊りが催されているようです。騒音にはなんて寛大な国なのでしょう。

作業療法室では音楽は一つだけ、音は小さくと言いつけたところ、今は静かになりました。その上驚いたことに、私の繰り返しの苦言が整備工場のお兄さんや寺院にも聞こえたのか、最近はずっかりなりを潜めました。私の声が騒音だったのかもしれませんが。

異文化の中でびっくりする事が多くありました。その背景を知れば理解できるようになるでしょう。タイの生活習慣に少しずつなじんで後1年余、タイの良いところをいっぱい見つけたいと思っています。



(写真右下)

澤木 佳子さん

派遣国：タイ王国

職種：作業療法士

派遣期間：平成21年1月～23年1月

配属先：東部職業リハビリテーションセンター

マリエル・トナーさん

(テ・アワムトゥ カレッジ 教員)



Q. 今、どんなお仕事をされていますか？

A. 私は地元の高校で保健体育の教師をしています。ラグビーも教えています。教えているのはラグビーリーグ（13人制ラグビー）で、主にタックル抜きの“タッチ・ラグビー”です。私は13歳から16歳の生徒を教えていて体育の時間は週に4回あります。保健は年間通算で2ヵ月程度学ぶことになっています。キーウィ（ニュージーランド人）の子供達を教えるのは日本の従順で礼儀正しい生徒を教えるのとは違ってかわってタフでハードな仕事です(笑) 体育を教えるのは大好きです。仕事は毎日異なり、常に新鮮です。

Q. ニュージーランドの近況について教えてください。

A. 2011年にラグビーのワールドカップがニュージーランドで開催されます。また最近、車を運転中に携帯電話をしたり、メールを書いたりすることが法律で禁止されました。私の街ハミルトンはニュージーランドで四番目に大きい街で、人口は12万5千人です。緑が多く、その中を川が流れています。熱気球フェスティバルで有名で、世界各地からの気球が集まります。

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 私は英会話教室の講師として1年4ヵ月富山に滞在しました。名古屋にもいましたが、私は買い物好きではないので、あまりその良さが理解できず(笑)、富山に引越しました。富山は緑が多く川が多い所など、故郷ハミルトンと似ていて、バスで着いたとたんにリラックスしました。富山のいい所は海と山の両方に近い所ですね。スキー場も近くビーチも近い。アウトドアには最適です。



世界各国から集まった夜光熱気球

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 私が英語を教えた全ての富山の生徒さんに“こんにちは”と言いたいです。誰かニュージーランドに来ることがあれば是非教えて下さい。

こんな“国際交流”やっています！

～“中国・四川省大地震被災地交流支援”アジア子どもの夢(富山市)～

～TICから助成した事業をご紹介します～

平成8年に発足した“アジア子どもの夢”。アジアの子供たちへの教育支援を目的に設立されました。チャリティコンサート、フリーマーケット、リサイクルショップの運営などの日頃の活動をとおり、ベトナムではフォーチェン小中学校を完成させるなど、アジア各国の子供たちを支援しています。

2008年5月12日に起きた中国・四川大地震では、死者は約6万9千人、負傷者は約37万4千人にのぼり、今も約1万8千人の人が行方不明になっています。アジア子どもの夢では、2009年7月19日から26日まで四川省成都市の小中学校を訪ね、被災した子供たちに八尾中学校の学生から集めた鉛筆、ノート、消しゴム、縫いぐるみ等を手渡しました。また、パソコン3台を現地で調達、寄付しました。去年から被災地を訪問・支援しているアジア子どもの夢ですが、代表の川淵氏は「復興が進むにつれ、生徒にも落ち着きが見られるようになり、被災地での交流を大変楽しんでくれました。」と語りました。



タラのココナッツミルク煮

タラはブラジルではとても高価な魚です。ブラジルでよく食べる魚は、鰯と鯖ですね。ブラジルでは塩干したタラをよく売っていて、コロッケや鍋などいろんな美味しい料理が作れます。富山の美味しい生のタラを使ってもいいですね。タラ料理はポルトガル人が伝えたものです。ブラジルにはアフリカ系が多いので、ココナッツを料理によく使います。ココナッツミルクを入れると味は軽くなりますが、入れなくても美味しいですよ。



～作り方～

1. ニンニクを油で炒め、タマネギをしんなりするまで炒め、塩、コショウで下味をつけたタラ、パプリカ、ローリエを入れる。
2. 刻んだトマトを加え、ソース状になるまで煮る。塩、ココナッツミルクで味をつけ、水分が少なければ水を足し、10分程度煮る。
3. パセリをのせて出来上がり。



～材料(4人分)～

- タラ切身…………… 4切れ
- ココナッツミルク…………… 少々
- トマト…………… 2個
- タマネギ…………… 1個
- パプリカ(赤、黄、緑) …… 各1/4個
- パセリ(ネギなども可) …… 少々
- ニンニク…………… 2～3片
- ローリエ…………… 少々
- 油…………… 少々
- 塩、コショウ…………… 少々

TICからのお知らせ

これからの行事予定

日本海学講座

「北陸の野生動物について
～モグラがいる、クマが出る、イノシシがやってくる」
2月6日(土) 13:30～15:00
富山県民カレッジ高岡地区センター学習室
(ウィング・ウィング高岡7階)

JET世界まつり

ステージアクション、各国ブース等
2月21日(日) 13:00～16:00
ウィング・ウィング高岡

(財)とやま国際センター賛助会員募集及び 寄付のお願い

財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費(1口) 個人会員 3,000円
団体会員 30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくごお願い申し上げます。

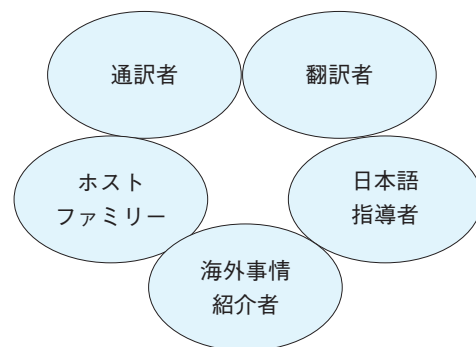
国際交流人材バンク

TICでは、様々な国際交流活動等に協力していただける人材を募集し、紹介しています。「外国の方をホストファミリーとして受け入れたい」、「通訳をしてもらいたい」など…そんな方は国際交流人材バンクを活用してみてください。

利用や登録についての詳細はホームページをご確認ください。

<http://www.tic-toyama.or.jp/>

国際交流人材バンクの5つの分野



国旗、民族衣装貸し出します！

122カ国の国旗、民族衣装などをお貸ししています！
詳細はホームページでご覧下さい…
<http://www.tic-toyama.or.jp/>

